

☆☆☆「かしこく やさしく たくましい松っ子」に！☆☆☆

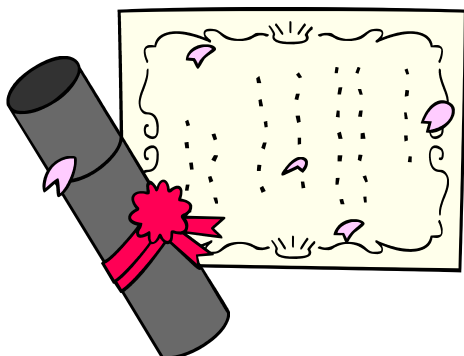
大村市立松原小学校  
学校だより

## 一歩前へ

文責：校長 高木 修  
令和4年2月24日No.23

☆☆☆子どもが「喜んで登校 満足して下校」する学校づくり☆☆☆

### ◆ 今年度の卒業証書授与式について



今年度の卒業証書授与式は、3月17日（木）に開催します。相変わらぬコロナ禍の中ですので、残念ながら今回も来賓の皆様方を招待して、6年生の晴れ姿を見ていただくことは叶いませんでした。しかし、今年度は在校生を代表して、5年生のみ式に参加します。

できる範囲の中ではありますが、気持ちを込めて、6年生の卒業をお祝いする式にしたいと思っています。

なお、当日は、1～4年生は休みとなります。

### ◆ 英会話放課後子ども教室修了

今年度の英会話放課後子ども教室が修了しました。お世話になった大村市教育委員会の皆様やALTの先生方に来ていただいて、修了式を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、まん延防止等重点措置が延長されてしまい、例年通りの式ができませんでした。

そこで、2月22日（火）の昼休みの時間に、ザック先生から修了証書を渡してもらいました。

今年度の参加者は20名でした。とても楽しく活動できていましたので、来年度は、さらに多く子どもたちに参加してほしいと思っています。



### ◆ 少年の意見発表

毎年、大村市青少年健全育成連絡協議会と大村市教育委員会の主催で「大村市青少年健全育成研究大会」が開催されており、その中で、「少年の意見発表」が行われています。今年度は、第40回大会が2月27日（日）に行われる予定で、しかも、本校が発表校の一つになりました。代表で発表するのは、6年生の浅井秀亮さんです。しかし、これもまた、新型コロナウイルスの感染拡大により、中止となってしまいました。

やむを得ないことではありますが、せっかくの発表の機会がなくなりましたので、2月21日（月）の全校朝会で発表してもらうことにしました。

「自然に逆らわず、共生することで自然のめぐみをもらうことができる」という祖父母の言葉から、環境問題に目を向け、将来は環境に関わるものを作る人になりたいという夢を話してくれた秀亮さん。とても立派な発表でした。

## 「自然と共生するということ」

松原小学校 6年 浅井秀亮

鹿児島県に住んでいるぼくの祖父母の家は、畑の真ん中にポツンとあって、周りには何もありません。となりの家とも百メートルほどはなれています。バスも電車もなく、買い物も車がないと不便です。夜になると真っ暗で、月が出ていない日は、かい中電灯がないと外を歩けないので本当にこわいです。しかし、明かりがないので、星がとてもきれいに見えます。ぼくは星が好きなので、帰省するといつも何十分も夜空を見上げて感動しています。

祖父母は何十年も前から同じ生活をしています。太陽といっしょに行動しているみたいに、明るくなると起きて畑仕事をします。夕方になると家にもどって、夜の8時には寝ています。インターネットもスマートフォンもありません。多分、必要ないんだと思います。

ぼくは帰省している間、宿題が終わると何もすることがなくて退屈です。ある時、ひまだったので畑に行ってみると、祖父母が土手に座って休んでいました。ぼくが、「休けい中？」と聞くと、「そう。いつも通り。太陽がこの高さに来ると一休みだよ。」と祖父母が言いました。時計も必要ありません。でも、ここには何も無いことが少し心配になって、「この生活は不便じゃないの？」とたずねてみました。すると、祖父母は笑って、「何も不便じゃないよ。自然のめぐみがいっぱいあるから幸せなんだよ。ほら、畑を見てごらん。耕した所にスズメが集まっているでしょう。土の中にいた虫やミミズを食べに来ているんだよ。」と言いました。他にも、ミミズが住みやすいということは土が安全だということ、び生物やミミズが土を分解してくれているから栄養がたくさんつまった土になること、日光や雨が野菜の成長には必要だということを教えてくれました。天気はとても大切で、気温や日光の量、雨の多さなどで野菜の成長にちがいが出ることや、最近は酸性雨が増えて、土が酸性になってしまうことがあるから、土に混ぜる石灰の量を増やして調節すること、それと自然に逆らわず、共生することで自然のめぐみをもらうことができるということをお話してくれました。その時の自分には少し難しかったけれど、「野菜を作ることは大変だな。祖父母はすごいな。」と思いました。

それから少し経って、コロナウイルスが世界中で大流行してしまい、ぼくは祖父母と会えなくなってしまいました。時々電話で声を聞くと、会いたくなってとてもさみしいです。それに祖父母がコロナウイルスに感せんしないか心配です。祖父母と会えなくなってから2年が経ち、ぼくは6年生になりました。6年生になったぼくは、図書室で本を借り、植物の成長や酸性雨について勉強しました。2年前は難しかった祖父母の話も、今は理解できるようになりました。現在、世界中で地球温暖化が問題になっています。温室効果ガスがどんどん増えて、このままだとぼく達が大人になる頃には、もっと異常気象が多くなると思います。酸性雨も増えて、農作物が枯れてしまうかもしれません。祖父母が言っていた『自然のめぐみがいっぱいあるから幸せ』『自然に逆らわず、共生すること』という言葉は、とても大事なことです。ぼく達がいつも過ごしているこの環境は、決して当たり前なことではないし、ずっと守っていかなければならない大切なものだと改めて思います。だから、ぼく達一人一人が環境問題に関心を持って行動し続けることが大切なんだと思います。

今は世界中で、環境にやさしいクリーンエネルギーが注目されています。温室効果ガスの一つでもある二酸化炭素の排出をなくすことで、地球温暖化のスピードを遅くすることができるそうです。すでにいろいろな技術が開発され、実用化されているものもあります。

『自然に逆らわず、共生することで自然のめぐみをもらうことができる。』

ぼくは、この祖父母の言葉を絶対に忘れません。そして、自然と共生する祖父母をお手本に、大人になったら何か環境に関わるものを作る人になりたいです。だから、この夢をかなえるために、中学生になっても勉強をがんばります。